



※本プレスリリースはジャガー・ランドローバー社が 2013 年 7 月 10 日に発表したプレスリリースの日本語訳です。

2013 年 7 月 16 日  
(日本語訳発行日)  
J13U007

## ジャガー『プロジェクト 7』、 グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードでデビュー走行

### 概要

- ジャガー『プロジェクト7』は 2013 年グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードでデビュー走行
- デザイン・ディレクターのイアン・カラム率いるチームによって創り上げられた『プロジェクト 7』は、大きな評価を得ているジャガーFタイプをベースにした今回限りのデザインスタディ
- オールアルミニウム製のシングルシーターである『プロジェクト 7』は、ジャガーD タイプを彷彿させる流線型ボディに、オリジナルのカーボンファイバー製エアロダイナミクス・コンポーネントを纏い、ユニークなインテリアも特徴的
- 『プロジェクト 7』は、550PS/680Nm を発生させるジャガーの 5 リッターV8 スーパーチャージド・ガソリンエンジンを搭載し、最高速度時速 186 マイルで、0-60 マイル/時に 4.1 秒で到達
- グッドウッドで『プロジェクト 7』のステアリングを握るのは、ジャガーのビークル・インテグリティ部門チーフエンジニアであるマイク・クロス

「『プロジェクト 7』は、Fタイプをベースに、自動車デザイナー達が夢に描くようなレースに着想を得たシングルシーターのスポーツカーです。その目的はとてもしつかりで、速い、ということと、運転して楽しい、ということです。ジャガーのスポーツカーはその抜きん出たパフォーマンスと、その目的にかなったクリーンなスタイリングで知られています。『プロジェクト7』はまさにそのスピリットを具現化しています。」

**イアン・カラム - ジャガー、デザイン・ディレクター**

### サマリー

ジャガーの『プロジェクト7』コンセプトは、7 月 12 日に開催される 2013 年グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードにて走行デビューします。2 シーターのコンバーチブル・スポーツカーであり、2013 年ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤーに輝くなど大きな評価を獲得している新型 F タイプをベースに開発されました。

エクステリアに加えられた変更には、ドライバーの頭部より後ろのエアロダイナミクス向上の他、フロ



ントスプリッターや、サイドスカート、およびリア・ディフューザー、より傾斜が強いウインドシールド、および再設計されたフロントバンパーなど、オリジナルのカーボンファイバー製コンポーネントがあります。『プロジェクト 7』の独創的なインテリアは、レーシングハーネスやヘルメットホルダー、またカスタムされたトリムなどを含むシングルシートが特徴的です。『プロジェクト 7』の名前は、英国のメーカーとしては記録樹立である、1951 年から 1990 年の間にルマンで 7 回優勝したことにちなんでいます。また、ブルーのペイントは、1956 年と 1957 年の勝者となった D タイプを連想させます。

『プロジェクト 7』は、単純な展示モデルコンセプトではなく、実際に走らせてこそその機能を満載させた高性能スポーツカーです。F タイプの強固なオールアルミニウム製ボディ構造が、550PS/680Nm を発生させる F タイプ V8S に搭載されているジャガーの 5 リッター、V8 スーパーチャージド・ガソリンエンジンよりもさらに 55PS/55Nm 増となるハイパワー・エンジンを完璧に活かしています。

「F タイプ開発にあたっては、ドライバーと車両との一体感の実現という目標を掲げていました。それはつまり、あくまでもドライバー・フォーカスのスポーツカーとして、俊敏でクイック、そして速いということに加え、もちろん、運転して楽しくなければならないということです。F タイプではそれらの目標を「公道」で実現したわけですが、『プロジェクト 7』では、さらにその上のレベルを達成するという特別な機会をもたらしてくれました。レスポンス、サウンド、そしてまさにシアーなパフォーマンス、全てが感動的です。グッドウッドでステアリングを握るのがとても楽しみです。」

**マイク・クロス - ジャガー、ビークル・インテグリティ部門チーフエンジニア**

ジャガーの 8 速クイックシフトと電子制御式アクティブ・ディファレンシャルと組み合わせられた、パワーアップしたエンジンユニットに加え、『プロジェクト 7』には、フリーフロー・エグゾースト・システム、10mm 低くなった車高、そして特別なダンパー/スプリング・チューニングが施されています。

「『プロジェクト 7』の魅惑的なデザインと比肩のないパフォーマンスは、まさにジャガーのスポーツカー作りの伝統と、常に革新に取り組むスピリットが具現化されたものです。グッドウッドでデビューするこの『プロジェクト 7』はジャガーのデザインおよびエンジニアリング・チームの創造性をアピールする絶好の場です。」

**エイドリアン・ホールマーク - ジャガー、グローバル・ブランド・ディレクター**

### **『プロジェクト 7』 - 情熱によるストーリー**

デザイン・ディレクターであるイラン・カラムは、常にチームに対して現状を打ち破り新しい次元への挑戦を促しています。そのイアンのもとで、このプロジェクト 7 の開発は、たった 4 か月前にジャガーの



デザイナーであるシーザー・ピエリが実験的に描いたスケッチから始まりました。

ピエリは、車とモータースポーツと、そしてジャガーの歴史に対する自身の情熱と、Fタイプに関する知識をもって、流麗なプロファイルと、傾斜の強いウインドスクリーンを持つ、レーシーなライブ感あふれるシングルシーターのスポーツカーを描きました。

「傾斜の強いウインドスクリーンでシングルシートのFタイプというこのスケッチを見た時、熱狂を覚えました。そして、これをさらに形にしたいと思ったのです。デザイナーとして、私たちが目指すところは、既成概念を覆し、また、覆すだけでなく、創出したものが通用するものであるという点です。その点、私たち、ジャガーは嬉々として限界に挑戦しているのです。

「我々チームは、この至極なアイデアを限られた製造期間内で形にし、かつ意味のあるものを作り上げるというチャレンジに取り組みました。私は、『プロジェクト7』を創出すべく、シーザーと、ジャガーのチーフ・デザイナーであるアリストテル・ウェランに対し、社内の各部署より必要なサポートを得つつ、より具体的なデザイン作業および機能的なコンセプトづくりに取り組むよう指示をしました。

#### **イアン・カラム — ジャガー、デザイン・ディレクター**

デジタルでのモデリングに続き、『プロジェクト7』のクレイモデルを製作してそれが承認された時、すでにグッドウッドは目前にせまっていました。ジャガーのエンジニアリング・チームはデザインチームと緊密な連携で仕事を遂行し、元のコンセプトに忠実に仕上げていきました。

『プロジェクト7』においても、Fタイプの2本のハートラインは継承される一方、Dタイプを彷彿させる、テールからドライバーの頭部あたりまでの流麗なリアセクションは、最も目に明らかな、新たに施された変更部分です。ルーフシステムは完全に取払われています。

空力特性を向上させるカーボンファイバー製のフロントスプリッター、サイドスカート、大きなリア・ディフューザー、そして14度の固定リアスポイラーが、『プロジェクト7』に低く、統一感のある、筋肉質なスタンスを与えています。サイド・ルーバーやボンネット・ベントも同様にカーボンファイバー製で、また、カーボンファイバーとアルミニウムできているドアミラーは、Fタイプの基となった、コンセプト・スポーツカー、ジャガーC-X16を想起させます。

ウインドシールドはより傾斜をつけ低くなり、さらに、変更を施されたエアインテークとヘッドランプユニットはクロームに代わってグロスブラックのモールで縁どられ、ノーズ全体が新たなデザインとなりま



した。また、ブレードタイプのデザインを施された 20 インチ鍛造アロイホイールはカーボンファイバーのインサートが施されています。

プロジェクト7のコックピットもエクステリア同様に印象的です。運転席は一体成型バケットシートで 30mm 低くなり、4 点式ハーネスベルトが採用されています。助手席は、『プロジェクト 7』のブルーのエクステリアカラーとグラフィックスに合うようカスタムデザインされた専用ヘルメットのための、専用ハーネスベルト付のユニークなヘルメットホルダーに取って代わられました。

シートとドアの内張りはレーシーなダイヤモンド柄のキルトで仕上げられ、カーボンファイバーのインサートがコンソールと、スポーツシフトレバーに施されています。スタート/ストップボタンはグロスブラック仕上げで、ステアリングホイールにはアルミニウムパドルが備されています。

「この車には、皆さんの目を奪うポイントが非常にたくさんの魅力が盛り込まれています。まるで皆さんの欲望そのものを具現化したようなものですが、つまりは、走ることを楽しむ、この 1 点こそがこの車の目的であることがおわかりになると思います。」

**イアン・カラム - ジャガー、デザイン・ディレクター**

## 『プロジェクト7』 主要諸元

<b>エンジン&amp;トランスミッション</b>	
排気量 (cc)	5000
気筒数	8
バルブ/シリンダー	4
圧縮比	9.5:1
ボア/ストローク (mm)	92.5/93.0
ボア/ストローク (inches)	3.64/3.66
トランスミッション	8速 'クイックシフト'
<b>パフォーマンス</b>	
0-60mph (秒)	4.1
0-100km/h (秒)	4.2
50-75mph (秒)	2.4
80-120km/h (秒)	2.4
電子制御付最高時速 (mph)	186
電子制御付最高時速(km/h)	300
出力 (PS@rpm)	550@6500
出力 (kW@rpm)	405@6500
トルク (lb ft@rpm)	502@2500-5500
トルク (Nm@rpm)	680@2500-5500
ホイール	20-inch Blade forged-alloy
タイヤ	Pirelli P Zero 255/30/20 (フロント) / 295/30/20 (リア)

\*全てメーカー計測参考値

## ジャガーのルマンにおける7回の優勝実績

1951	C-type	Peter Walker, Peter Whitehead
1953	C-type	Tony Rolt, Duncan Hamilton
1955	D-type	Mike Hawthorn, Ivor Bueb
1956	D-type	Ron Flockhart, Ninian Sanderson
1957	D-type	Ron Flockhart, Ivor Bueb
1988	XJR-9LM	Jan Lammers, Johnny Dumfries, Andy Wallace
1990	XJR-12	John Nielsen, Price Cobb, Martin Brundle

以上

読者からの問い合わせ先:  
ジャガーコール(フリーダイヤル)0120-050-689  
(9:00~18:00、土日祝日を除く)

この件に関する報道関係者からの問い合わせ先:  
ジャガー・ランドローバー・ジャパン マーケティング・広報部 03-5470-  
4242

広報写真、発行済プレスリリース、および広報資料などは  
ジャガー・ランドローバー・ジャパン プレスサイトをご利用ください

<https://pr.jlr.jp/>

※ご利用にはユーザー登録が必要になります